

昭和四年

8760

歩兵

陸軍

一〇七

陸軍第七〇號

二〇

災害騷擾ニ方リ出兵計畫準備書提出ノ件

大正四年三月七日

第十七師團長 大野豊四

陸軍大臣 宇垣一成殿

災害騷擾ニ方リ出兵計畫準備

書ノ別冊ノ通り定メ候條及上報

告候也

秘

大正十三年二月調製

災害騷擾ニ方リ出兵計畫準備書

附録 出動部隊服務參考

6760
第十七師團

第十七師團 參案第五號

災害騷擾ニ方リ出兵
計畫準備書ノ件達

團下一般

災害騷擾ニ方リ出兵計畫準備
書ヲ別冊ノ通り定ム

大正十三年三月七日

第十七師團長 大野豊四

1960

附	第	第	第	第	第	第	第	第		
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	目
録	章	章	章	章	章	章	章	章	章	次

出動部隊服務參考	附	報	兵器ノ使用	輸送準備	經理及給養	裝	編	防護擔任	總
	則	告				備	成	任	則

災害騷擾ニ方リ出兵計畫準備書

第一章 總則

第一條 本書ハ天災地變又ハ一般社會的問題等

ニ基因シテ騷擾ヲ惹起シ安寧秩序ヲ害スルニ

方リ軍隊固有ノ威力ヲ用ユルニアラサルハ之

力鎮靜ヲ期シ得サル場合ニ於テ師團司令部條

例第五條又ハ衛戍條例第九條ニ據ル出兵計畫

ニ一般ノ準據ヲ與フルモノトス

第二條 師團司令部條例第五條第一項又ハ衛戍

條例第九條第二項ニ依リ出兵スル場合ニ在リ

テハ其ノ責任ノ存在ヲ明ニスル爲地方長官地

方官ノ出兵要求ニ關スル確實ナル憑據ヲ保有

スルヲ要ス

第三條 分屯地衛戍司令官及第七條ニヨル防護

擔任官ハ第一條ニ依リ出兵ヲ要スヘキ情況ヲ

豫察シタル時ハ速ニ師團長ニ報告シ其ノ指示

ヲ受クルモノトス

師團長岡山衛戍地以外ニ出張不在ノ場合ニ在

テハ其ノ衛戍司令官代理者ハ亦前項ニ依リ處

理スルモノトス

第四條 衛戍司令官ノ衛戍條例第九條第三項ニ

據ル兵力使用(出兵)ハ事態緊急ニシテ且其ノ必

要ヲ確認シタル場合ニ限ルモノトス

第五條 出勤軍隊ノ勤務實施ハ關係諸法規ノ示

ス處ニ從ヒ其ノ範圍ヲ脱逸スルヲ許サス

第二章 防護擔任

第六條 衛戍條例第九條ニ據ル衛戍司令官ノ出

兵ハ其ノ衛戍地域内ニ限ルモノトス

第七條 前條以外ノ地域ニ對スル出兵ハ師團長

ノ區處ニ依ル之カ爲各種ノ情況及地域ニ應ス

ル使用部隊ヲ概定シ且ツ當該地域ノ防護擔

任ヲ定ムルコト附表ノ如シ

第八條 衛戍司令官及防護擔任官ハ其ノ擔任區

域内ニアル官公廳及主要ナル建築物工場其ノ

他ノ諸施設中災害騷擾ニ方リ特ニ兵力ヲ以テ

保護防衛スルヲ要スヘキモノヲ調査シ且防護

計畫ヲ概定シ之ヲ師團長濱田衛戍司令官及濱

田聯隊區管内防護擔任官ハ步兵第三十四旅團

長ニ報告シ置クモノトス

衛戍司令官防護擔任官及聯隊區司令官ハ絶
 ス其ノ關係區域内ニ於ケル各種團體工場等ノ
 内情其ノ他一般ノ民情ヲ觀察シ必要ニ應シ師
 團長ニ報告スルト共ニ關係諸官ニ通報スルトヲ
 要ス

第三章 編 成

第九條 出動部隊ノ兵力ハ其ノ目的ヲ達スル爲
 常ニ不足ナキヲ要ス

第十條 出動部隊ハ之ヲ分散使用シ或ハ乍候巡
 察等モ其ノ長ヲ將校トスルヲ要スル場合多キ
 ヲ顧慮シ幹部殊ニ將校數ノ多キヲ要ス
 出動部隊ニハ通常其ノ隊固有長官ヨリ少クモ
 一階上級ノ將校以下若干ノ人員ヨリナル本部

ヲ附スルモノトス

師團長ハ所要ニ應ジ特ニ將校同相當官、文官ヲ

配屬シ其ノ業務ヲ補佐指導セシムルコトアリ

第十一條 出動部隊ノ増減ハ情勢ニ伴フヲ要スト

雖地方官憲ト終始一貫緊密圓滑ナル連絡ヲ保

持スル爲軍隊高級指揮官ハ成ルヘク之ヲ變更

セサルヲ要ス

第十二條 出動部隊ノ編組ハ概ネ歩兵ヲ主トシ之

ニ必要ナル騎砲工兵及衛生機關ヲ附ス

災害ニ方リ警備勤務ノ外一般ノ救療輸送ヲ必

要トスル場合ニアリテハ衛生機關工兵及車輛

部隊ノ多キヲ可トス

何レノ場合ニアリテモ各部ノ連絡ヲ密ニシ又

ハ地方通信機關ヲ援助スル爲通信部隊ノ能力
ハ成ルヘク大ナラシムルヲ要ス

第十三條 出動部隊ヲ編成スルニ當リテハ軍隊ノ
本務ニ必要ナル人員及特別ノ教育ヲ要スル者
（士官候補生、一年志願（現役）兵、下士候補者、勤務演
習召集者、士卒、看護學修業兵及是等ノ教育擔任
者等）ハ成ルヘク之ヲ殘置シ且出動留守中ノ教
育繼續ニ支障ナカラシムルヲ要ス

又補助憲兵使用ノ場合ヲ顧慮シ各部隊ハ概ネ
左ノ人員ヲ控除準備シ置クモノトス

一、分屯^也步兵聯隊、將校一、下士三、兵卒四五

二、岡山屯在部隊
步兵及砲兵聯隊、將校一、下士三、

兵卒 三〇(死兵聯隊)
 其他ノ聯隊 下士一、 兵卒一〇、

第四章 裝 備

第十四條 服裝及馬裝ハ軍裝ニシテ營内居住下士

以下概テ第三裝甲ヲ着用シ背囊旅囊入組品ハ

特ニ定ムルモノ外概テ當該年度動員計畫ノ

亦ス處ニ準スルモノトス

第十五條 遠隔ノ地ニ派遣スル歩工兵ハ馬匹ヲ牽

連スルコトナク之ニ代フニ必要ノ自轉車等ヲ

携行シ又所要ノ乘用及貨物用自動車其ノ他ノ

運搬具ハ地方在來ノモノヲ利用スルニカムル

モノトス

第十六條 衛戍地外出動ノ場合ニアリテハ將校以

下毛布一枚宛ヲ携行シ又所要ニ應シ戰時編成
ニ準シ若干ノ豫備被服ヲ部隊ニ於テ携行スル
モノトス

將校行李ハ各自一個宛、公用行李ハ概ネ本部ニ
個、中隊(獨立小隊)一個宛ヲ携行スルモノトス

第十七條 彈藥ハ小銃一銃ニ對シ空包十五發、實包
三十發宛、機關銃一銃ニ對シ空包各十連宛
輕機關銃ハ之ニ準スヲ携行スルヲ基準トス

第十八條 通信器材及災害救助ノ必要ヲ認ムル場
合ニアリテハ作業器材ハ成ルヘク多クヲ携行
スルヲ要ス

第十九條 衛生材料ハ所要ノ藥劑行李担架及若干
ノ繃帶包ヲ携行シ災害救助ノ必要ヲ認ムル時

ハ特ニ其ノ數量ヲ多カラシムルヲ要ス

第五章 經理及給養

第三十條 出動ニ要スル經費ハ先ツ現在ノ前渡金ヲ以テ支辨シ不足スルモノハ師團經理部ニ請求スルモノトス

經費ノ支出區分ハ臨機之ヲ指示ス

第三十一條 出動ニ要スル兵器、被服、裝具、糧秣、器材、其ノ他ノ諸品ハ總テ常用(演習用)品ヲ用ユルモノトス

第三十二條 糧秣ハ携帶口糧(馬糧)ノ外衛戍地外出動ノ場合ニアリテハ若干ノ豫備糧秣ヲ携行スルモノトス

第三十三條 給養ハ通常部隊自炊ニヨルモノトス之

カ爲所要ノ炊具ヲ携行スルヲ要ス

第六章 輸送準備

第三十條 衛戍司令官及防護擔任官ハ災害騷擾ニ當リ鐵道交通ノ杜絶又ハ鐵道ノ敷設ナキ地方ハノ出動ヲ顧慮シ常ニ衛戍地附近ニアル自動車其ノ他ノ運輸機關ヲ調査シ之カ雇傭又ハ徵發ヲ腹案ニ置キモトス

第三十條 出兵ヲ豫期シ且之カ爲鐵道船舶ノ使用ヲ豫察スルニ至ラハ機ヲ失セス之カ準備ヲナスヲ要ス而シテ地方長官ノ請求ニヨリ出兵スル場合ニアリテハ所要ノ船舶又ハ車輛モ亦當該長官ヲシテ準備セシムル如ク指導スルヲ可トス

1960-3

第三六條 衛戍地外出動ノ場合ニ在テハ交通通信

機關就中鐵道電信電話線等ヲ保護シ其ノ機能

ヲ完全ナラシムルコト特ニ緊要ニシテ之カ保

全ニ關シ當該當局ニ要求スルノ外必要ニ應シ

所要ノ援助ヲ與フルヲ要スルコトアリ

第三七條 出動軍隊ノ到着スヘキ第一日ノ目標ハ

先ツ騷擾由心地ヲ距ル若干ノ地點或ハ災害地

ノ外縁ニシテ交通通信ニ便ナル地點ニ撰ヒ以

テ情況不明ノ裡ニ不時ノ衝突ヲ豫防シ又ハ過

早ニ災害ノ渦中ニ投スルノ不利ヲ避クルヲ要

ス

第七章 兵器ノ使用

第三八條 兵器ノ使用ハ衛戍勤務令ニ準據シ最モ

六

慎重ナルヲ要ス

第三九條 軍隊指揮官ハ出動ノ當初兵器ノ使用ニ
關シ最モ明確ニ部下ニ徹底シ且之ヲ一般民衆
ニ公布スルヲ要ス

第三十條 空包、實包ノ分配ハ必要ニ臨ミ初メテ之
ヲナスヘク又下士以下ノ着剣抜刀ハ自衛上眞
ニ已ムヲ得サル場合ノ外將校ノ指示ニ俟ツヲ
常トス

第三十條 勤務實施ニ際シ兵器ヲ使用シタルトキ
ハ其ノ實施者ヲシテ最モ速ニ當時ノ情況ヲ詳
報セシムルト共ニ軍隊高級指揮官ハ之ヲ直ニ
師團長ニ報告スルモノトス

第八章 報告

第三條 出動部隊高級指揮官ハ日々一般ノ狀況

及軍隊ノ行動ヲ師團長ニ報告スルモノトス

第三條 出動軍隊中中隊(獨立)ニ行動セル部隊ニ準ス

ル部隊以上ノ諸部隊ハ日々直屬指揮官ニ行動

要報ヲ又勤務終了後五日以内ニ行動詳報ヲ提

出シ高級指揮官ハ自己ノ詳報ト共ニ十日以内

ニ之ヲ師團長ニ提出スルモノトス

第九章 附 則

第三條 分屯地ニ在ル衛戍司令官及防護擔任官

ハ災害非常又ハ騷擾ニ方リ事急速ニ要シ若ク

ハ通信杜絶等ノ爲師團長ノ指示ヲ受クル邊ナ

キ場合ニ於テハ其ノ衛戍地域又ハ防護擔任區

域内ニ限り直ニ兵員ヲ派遣シ罹災者其ノ他一

七

般ノ救護ニ從事セシムルコトヲ得
 前項ノ派兵ハ師團司令部條例及衛戍條例以外
 ノ行動ニ屬スルヲ以テ断シテ救護ノ範圍ヲ超
 ヲルヲ得ス

9960

出動部隊服務參考

9960

其	其	其	其	其	目 次
五	四	三	二	一	
雜 件	宣 傳 謀 報	地 方 機 關 ト 連 絡	警 備 ニ 關 ス ル 軍 隊 ノ 部 署	出 動 軍 隊 ノ 職 域 行 動	

出動部隊服務參考

其一 出動軍隊ノ職域行動

第一

出兵ノ目的ヲ達スル爲緊要ナル手段

ハ之ヲ斷行スルニ躊躇スヘカラス然レ共警

察官憲ニ無形ノ援助ヲ與ヘ之ニ依リテ地方

ノ安寧秩序ヲ恢復シ民心ノ鎮靜安定ヲ得セ

シムルコトモ亦緊要ナル手段トス要ハ國家

ノ生存時局ノ救済並ニ民生生活ニ必要ナル諸資

源諸施設及諸建築等ヲ防護維持助長シ且ツ極

力悪宣傳及流言ヲ防止シ以テ民衆ノ心情ヲ漸

次緩和和平靜ニ復セシムルニアリ

第二 事變ノ當初ニ於テ地方警察機關殆ン皆

其ノ實力ヲ喪失セシ場合ニアリテハ警備ハ甚

體ハ一時軍隊ニ歸シ暴力ニ對スル諸物件ノ警
 護警察力ヲ無視スル民衆ノ制止團結カアル暴
 徒ノ鎮壓等亦軍隊ヲ主體トセサルヘカラサル
 コトアリ然レトモ之レ完ク一時ノ變態ニシテ
 軍隊ハ成ルヘク速ニ地方警察機關ノ實カラ復
 活セシムル如ク之カ扶掖向上ニカムルヲ要ス
 第三 總テ不逞分子ノ檢舉ハ警察憲兵ノ職域
 ニ屬ス軍隊ハ所要ニ應シ其ノ威カアル後援タ
 ルヘク自ら進テ犯罪ノ檢舉捜査ニ任スヘキラス
 第四 甚大ナル災厄ノ爲秩序全ク破壊セラレ
 タル場合ニ於ケル應急救護ハ組織實カアル軍
 隊ヲ以テ之ニ當ルニ非ラサレハ其ノ目的ヲ達
 スルニ難シ然レトモ一般救護業務ハ本來之ヲ

主管スヘキ官廳他ニ存スルヲ以テ軍隊ノ行フ
 救護業務ハ大局上治安維持ヲ目的トスル應急
 ノ施設ニ止メ且ツ此主旨ハ一般官民ニ知ラシ
 ムルヲ要ス

第

五

災害ニ際シ罹災患者ノ救護業務ハ救急
 處置ト患者収療トノ二部ニ分ツヲ得而シテ陸軍
 衛生機關ハ此ノ前者ニ任スルヲ主トシ後者ハ

地方衛生機關ヲシテ之ニ當ラシムルヲ可トス

第

六

地方自警團等ノ活動ハ何レノ場合ニア
 リテモ之カ統一指導ヲ要スルモノトス而シテ
 之ニ當ルハ地方官憲ノ職域ニ屬スト雖甚大ナ
 ル事變ニ際シ此等官憲ノ權威及ハサル時機ニ
 限リテハ軍隊ニ於テ之ヲ指導スルノ已ムヲ得

サレコトアルモノトス

第

七 勞資爭議若クハ之ニ類スル騷擾ニ對シ

テハ出勤軍隊カ力メテ公正ヲ持スルヲ要ス

之カ爲勞資兩者ニ對スル直接ノ交渉ハ絶對ニ

之ヲ避ケ必要ナル事項ハ憲兵警察官憲等ヲ中

介トシ或ハ之ニ委スルヲ要ス若シ已ムを得ス

勞資兩者ニ直接々觸スル場合ニアリテハ極メ

テ公正ヲ維持シ國家ノ爲速ニ兩者ヲ平靜ニ歸

セシムル如ク指導スルヲ要ス

其二 警備ニ關スル軍隊ノ部署

第

八 災厄ニ當リ軍ニ民心ノ動搖ヲ防止スル

爲ニハ其ノ當初兵力ヲ各マス分散配置シ部隊

ヲ以テスル巡察(情況ニヨリ憲兵ヲ用ヒ又哨兵)

ヲ派遣スルハ民心安定上大ナル効果アリ然レ
 トモ此配置人多クノ兵力ヲ要スルヲ以テ情況
 安定ノ曙光ヲ認ムルト共ニ機ヲ失セス之ヲ集
 結ニ着手スルヲ緊要トス之ニ反シ團結アル民
 衆ノ騷擾ニ對シテハ之ト無益ノ接觸ヲ避ケ不
 慮ノ衝突ヲ防止スル爲軍隊ハ成ルヘク集結シ
 休候巡察ノ派遣ハ極メテ慎重ニシテ下士卒ノ單
 獨ノ行動ヲ禁止スルヲ要ス

第九 兵力ヲ分散配置スル場合ニアリテモ重
 要ナル官公署其ノ他國家ノ生存時局救済治安
 維持上特ニ警備ヲ要スル公私物件、刑務所、銀行
 金庫、税關、倉庫、集積場、交通々信機關、中重要ナル
 局署及術工物給水又ハ動力供給機關、公益上必

三

要ナル大工場危険物格納所等ハ相當ノ兵力ヲ以テ警備シ不時ノ事變ニ備ヘサルヘカラス

第十 警備上最モ重要ナル價値ヲ發揮スルハ

歩兵及騎兵トス而シテ騎兵ハ馬匹ノ繫累アルカ爲都市内ノ使用ニ便ナラス一部ヲ巡察傳令ニ使用スルヲ可トス

工兵ハ災害ノ救助復舊ニ常ニ甚大ノ能力ヲ發揮ス

輜重兵ハ其ノ固有性ヲ發揮シ得ル如ク輸送護送ニ任セシメ砲兵ハ火炮ノ使用ヲ豫期スル場合ノ外乘馬巡察傳令輸送ニ任セシムルヲ可トス

第十一 軍隊ノ撤去ハ慎重ニ之ヲ行フヲ要スルト
共ニ其ノ機ヲ失セサルヲ肝要トス而シテ之カ
實施ハ地方官憲ト緊密ナル協調ヲ要スルモイトス
其三 地方機關トノ連繫

第十二 出動部隊高級指揮官ハ常ニ地方官憲ト緊
密圓滑ナル連繫ヲ確保スルコト最モ緊要ナリ
之カ爲成シ得レハ其ノ本部ヨリ地方行政警察官
憲中相當責任者ヲ招致シ置クト共ニ自ラモ亦
之ヲ派遣シ置クヲ要ス
爾他ノ狀況之ヲ許ス時ハ其ノ本部ハ是等官廳
内ニ置キ或ハ之ニ近ク位置スルヲ候トス

第十三 軍隊高級指揮官ハ警備救護等業務ノ遂
行ヲ確切容易ナラシムル爲日々關係官公署主

務者ヲ會シ打合セ會議ヲ開クヲ要ス此ノ會議
 =當リ軍隊指揮官ハ軍部ノ執ルヘキ行動=就
 キテハ確乎タル信念ヲ持シ軍事行動=觸レテ
 ハ會議ノ主宰者タラサルヘカラス

第十四 地方官憲ニ對スル通報ノ授受ハ其ノ確
 實ヲ期スル爲特別ノ顧慮ヲ要シ速ニ相互傳達
 責任者ヲ定ムルヲ要ス

其四 宣傳、謀報

第十五 出動軍隊ノ長ハ速ニ軍隊出動ノ目的ヲ
 民衆ニ布告シ以テ民意ヲ安ニスルニカムルト
 共ニ之ニヨリ彼等ヲシテ自ラ秩序ヲ恢復シ平
 靜ニ歸セシムル如ク指導スルヲ要ス

第十六 軍隊ノ行ハ宣傳ハ軍事又ハ治安維持ヲ

主眼トシテ行フヲ必要トス而シテ流言防止警備充實ノ狀況ヲ知ラシムル外救護補給ニ關スル宣傳亦必要且有効ナルモ後者ニアリテハ實行克ク宣傳ニ伴フニ注意セサルヘカラス

第十七 災害ニ方リ治安維持ニ任スルモノハ假令多少ノ根據アル流言ト雖絶對且積極的ニ之ヲ阻止スルヲ要ス

第十八 住民ノ生命財産確保ノ爲軍隊ノ採リタル手段(糧秣ノ補給警戒配置暴徒ノ鎮壓等)ヲ速ニ告示スルヲ要ス

第十九 軍隊ノ直接行フ積極的宣傳ハ原則トシテ世上新聞其ノ他刊行物ノ活動配布旺盛ナラサル時機ニ止メ是等諸機關復興スルニ從ヒ漸次之ヲ利用

五

スルノ方策ニ出ツルヲ可トス然レトモ一般營利
 的刊行物ハ騷擾ニ方リテハ稍モスレハ彼等民衆
 ノ反感ヲ恐レ事實ノ記載ヲ避ケントスルモノア
 リ注意ヲ要ス

第二十 各方面ヨリ集中スル情報ハ多種多様頗ル
 雜然タルノミナラス直接必要ナキモノ亦少ナカ
 ラス故ニ出動軍隊ハ一定ノ情報整理者ヲ定メ又
 主動的ニ情報蒐集ニカムルコト所要ナリ

第二十一 災害騷擾ニ方リテハ外國諜者ノ之ニ乗セ
 ントスルモノアリ而シテ之カ取締ハ亦警察若
 クハ憲兵ノ主任スル處ナリト雖其ノ力及ハサ
 ズ至ラハ軍隊亦之ヲ擔任セザルヘカラス而
 シテ之カ行動監視ハ概シテ徹底的ナルハク或

ハ保護ノ名義ノ下ニ終始執拗ニ追隨シ事ニ依
リテハ露骨ノ處置ヲモ避クヘカラサルニ至ル
モノトス

其五 雜 件

第十二 金品ノ寄與ハ其ノ名義ノ如何ヲ問ハス官
公署、公共團體ヲ以テスルモノニアラサレハ之ヲ
受理スヘカス